

2017



Keio Business School

慶應義塾大学大学院経営管理研究科

LEARN TO LEAD

KEIO
MBA



価値あるビジネスリ

最高水準の教員、良質で豊富なケースメソッド、徹底

■なぜMBAをビジネススクールで学ぶのか？

ビジネスエリートといわれる多くの人たちが、現在の仕事を中断してまでも、ビジネススクールに学びMBAの取得を目指しています。またその受け皿となるべく、日本でも、経営学を名乗る大学院が、ナイトスクールを含めて珍しくなくなり、毎年MBAの修了証書を手にした人たちが、少なからず社会に送り出されています。

ところで、ビジネススクールで学び、MBA資格を得ることに、どのような価値があるのでしょうか？

河野宏和委員長「MBA待望の背景には、グローバル化が進み不確実性が増すビジネス環境のもとで、未来を切り開くための知識と力量を持つビジネスリーダーが、いよいよ切実に求められていることがあります。多くの日本の企業・組織のリーダーには、これまで経験値が重視されてきましたが、社内の各部門、海外勤務を経験したとしても、過去の経験に頼るだけでは的確な意思決定や経営判断はまず不可能

「MBA取得やスキル獲得を超えて
確かな土台とクリアなビジョンを持つ
タフなグローバルリーダーをつくる」

河野 宏和

慶應義塾大学大学院経営管理研究科委員長・教授
慶應義塾大学ビジネス・スクール校長

福澤諭吉の「実学の精神」

日々の実践的な学びを通し、ビジネスリーダーとしての資質を磨きます。

P.6

世界基準的教育品質保証

AACSB、EFMD EQUISの2大国際認証を得ています。

P.6



リーダーになるためのフルタイム 2 年間

議論で鍛えられるダイバーシティ環境

です。ビジネスに求められる理論体系を身につけ、自社を取り巻く環境を把握し、資金や人材を十全に活用しながら、未来の経営戦略を構築、実行するためには、優れたビジネススクールでの学びの重要性が認識されてきたのです」

■ビジョンと使命感を持つリーダーになる

慶應義塾大学大学院経営管理研究科(KBS)は、1962年に日本初の大学ビジネススクールとして設立され、50年以上の歴史があります。慶應義塾創立者、**福澤諭吉**の「**実学の精神**」のもと、「経営の専門家」たるビジネスリーダーを多数育成し、単なるMBA取得のためのビジネススクールとは一線を画しています。そのビジネス界での揺るぎない実績と**世界基準の教育品質保証**を得ている国際的な高評価の理由は、KBSの圧倒的な「教育の質と量」に支えられています。**清水教弘**「大手情報通信企業で8年働き、温めてきたビジョンを実現する力をつけるためにKBSに入学。会社内でも実績を積み上げていましたが、自身の業務を超えて、フレームワークなどビジョン実現の土台づくりを習得したいと判断。KBSでは最高水準の先生方のもと、良質で豊富なケースメソッドを使って議論型の授業が展開されます。1年次では、**主要8領域**を学ぶ基礎科目で身につけた知識をフル活用し、とことん考え抜いて立案して、導き出したプランに自らの意思は反映しているかを検証し、さらにどう実行し、どのような成果が得られたのか。これらを繰り返すたびに、

自分の鋭さとタフさが増し、絶対にギブアップしないスタミナが備わっていくことを実感しました。さらにそれは、2年次の**ゼミ**での議論の場を通してブラッシュアップされたと感じています。濃密なフルタイムの2年間の学びだからこそ、MBA取得にとどまらず、クリアなビジョンと強い使命感を抱く、真の経営者スピリットが自らの中にしっかりと育ったと思います」

■最高レベルの教員と、量と質で群を抜くケースメソッド

慶應型ケースメソッドは、レクチャー中心のケーススタディと異なり、討議を繰り返して実践力を身につける手法です。

河野「研究者として第一線で活躍する教員は、教育者としても最高レベルの資質を持ち合わせていて、教えるというよりも、学生の意見を引き出すファシリテーターの役割を担い、学生が自ラたくましく成長することを促します」

清水「自分の指導教員をはじめ、多くの先生と日々接しています。日本のマーケットに精通している先生が多く、これもKBSで学ぶメリットのひとつです」



清水 教弘

現：日本マイクロソフト株式会社
パブリックセクター
テクノロジーソリューションセールス本部
アカウントテクノロジーストラテジスト
経営管理研究科修士課程2016年修了

主要8領域

総合的経営管理能力の基本となる8領域を学びます。

P.7

ゼミ

2年次の学びの中核。少人数による密度の高い議論を通じ、専門性を身につけます。

P.9

慶應型ケースメソッド

ディスカッションを通し新しい知恵を創出。オリジナルケースの開発とケース開発者による授業を行います。

P.6



価値あるビジネスリーダーになるためのフルタイム2年間



「キャリア、年齢、性別、国籍の異なる学生がフラットにつながり切磋琢磨」

■ダイバーシティ環境とIP留学

仕事を休職・退職してステップアップを目指す人、企業から派遣された人、文系・理系を問わない新卒の学生、そして海外からの多国籍なIP(国際単位交換プログラム)留学生。バックグラウンドもキャリアも、年齢も国籍も異なる学生がフラットにつながるダイバーシティ環境も、KBSの大きな魅力です。

高宮 笙子「社会人経験がない新卒学生としては、基礎力をつけながら、多彩なキャリアの人たちと議論できるのが素晴らしい。また、米国から来ているIP生にKBSの魅力を尋ねると、『日本人の先生の英語授業が、母校の授業よりエキサイ

ティングで面白い』とのこと。留学生を受け入れているビジネススクールは数あるけれど、日本人の感性を持つ先生が、留学生に感銘を与える英語授業をしていることにKBSのレベルの高さを感じます」

河野「国際標準の教育といっても、ただ英語で授業をすればいいというものではないと思います。それでは世界中のビジネス

スクールが同じになってしまいます。世界を視野に入れながら、日本のビジネスの魅力を、日本人の感覚で伝えることは、教員にとっても重要なことだと思います」

清水「私はIP生としてスペインに留学しました。いちばん感じたのは、日本人がいない圧倒的なマイノリティの環境に身を置くことの厳しさと面白さ。日本でのあたりまえ感覚が通用せず、常識が覆されました。KBSにも多くのIP生がいますが、彼らと議論をしていると、わかっているつもりのが根本から問い直されて窮地に陥る場面もあり、それを立て直すためにさらに知力を絞り出すなど、世界で通用するための力が鍛えられます」

高宮「たとえばグローバル企業のケースメソッドを外国籍の人を交えて学ぶとき、彼らの考え方や発想を新鮮に受け取ると同時に、日本的な感性や考え方をきちんと発信し、価値ある意見として海外のビジネススクール生に納得して受け入れてもらうことが大切だと思います。KBSのダイバーシティ環境は、それを可能にしてくれます」

河野「MBAが取得できれば、と思っているだけの人は、率直に言って国内でも海外でも真のリーダーにはなりません。KBSのフルタイムの2年間は、資格を超えて自分の土台をつくり、ぶれない軸を持ち、どんな環境下でも、自分の目指すものに立ち向かい、創造し、周囲を巻き込んで成功をつかむことのできる真のビジネスリーダーを育て上げます」



高宮 笙子

経営管理研究科修士課程2年
慶應義塾大学文学部2015年卒

IP(国際単位交換プログラム)

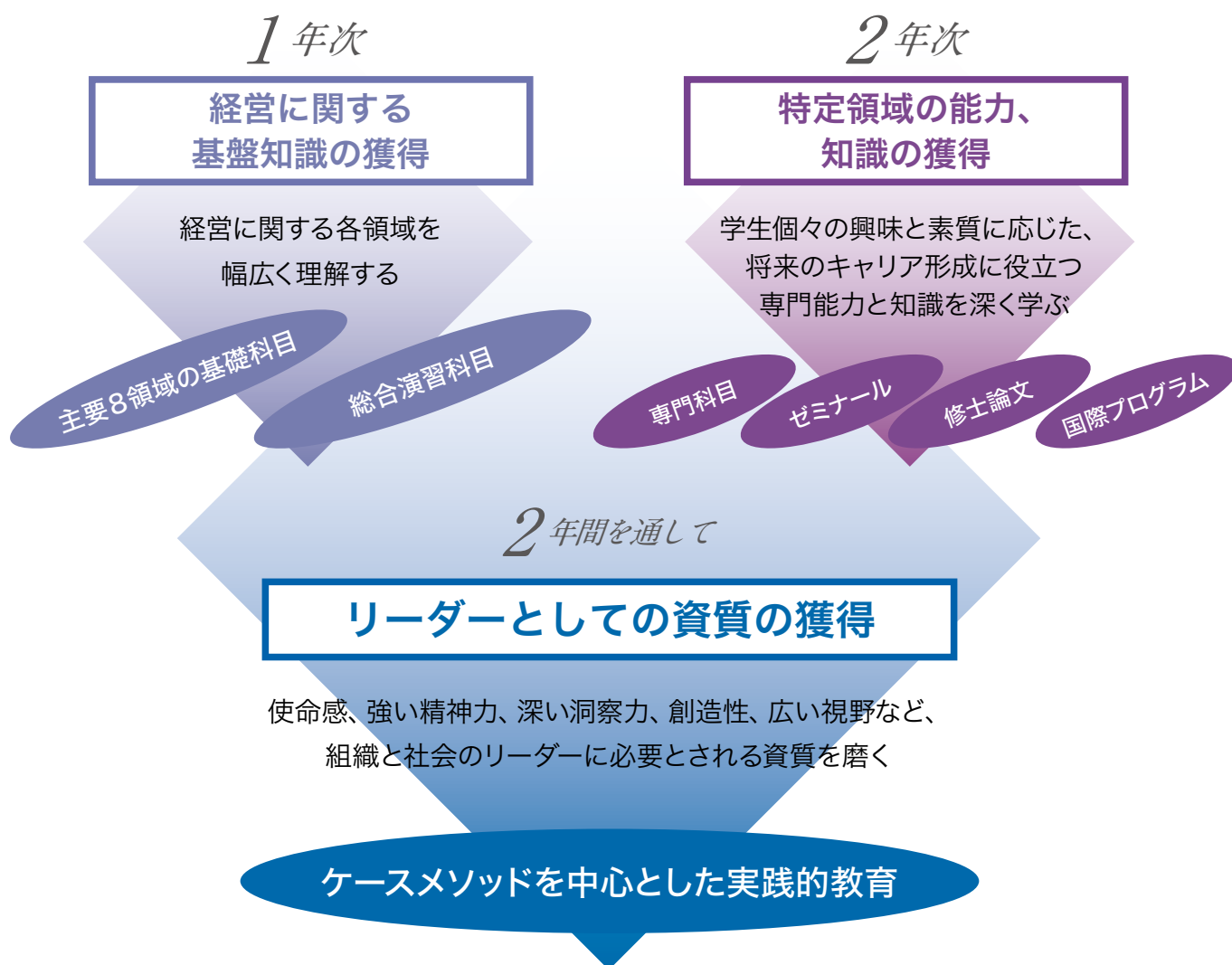
世界各国トップレベルのビジネススクール協定校へ留学可能です。

広く、深く、濃く、そしてタフに一。 KBSのMBAには、経営学のすべてがある。

不確実な環境で将来を見通し、ビジョンを持って目標を定め、膨大な情報から本質を見抜いて戦略意思決定を行う。ビジネスリーダーには高度な情報分析能力と判断能力が要求されます。そして、自らの分析と判断に基づき、社会と組織を先導することのできる使命感や情熱、リーダーシップが必要です。KBSの、国際水準の教育の質と圧倒的な学習量によって、このような多くの素養を身につけることができます。

- 1年次の基礎科目では、マネジメント能力の基盤となる主要8領域を実践的なケースメソッドで学び、総合演習科目でそれらを領域横断的・有機的に活用する方法を学びます。
- 2年次には、ビジネス上の強みとなる専門能力を深化させるため、各自のキャリアプランに応じた専門科目群を履修しつつ、少人数制のゼミナールで問題発見・解決能力を磨きます。さらに、国際的なビジネス感覚を養うための各種国際プログラムを用意しています。

LEARN TO LEAD—KBSのカリキュラムは、リーダーとなるための幅広いマネジメントスキルと深い専門性、それらを総合し発展させるための方法論を提供します。



KBS について

1962年に創立された、日本で最も歴史のあるビジネススクールです。MBAやPh.D.といった学位を授与するプログラムを提供する【慶應義塾大学大学院経営管理研究科】と、様々な短期間のエグゼクティブセミナーを提供する【慶應義塾大学ビジネス・スクール】があり、両者を包括して、創立時からの名称である「KBS」と呼んでいます。

KBS Mission Statement

KBSは新たな構想を作り実現するリーダーを育成する。そのために、多様な学生がともに学ぶ喜びを知り、世界一線級の研究を発信し、実務経験と体系的知識を融合する場を提供する。



Since 1858

福澤の教え



KBSの学び

Since 1962

「実学の精神」



慶應型ケースメソッド

「半学半教」



学生+教員

ケースメソッドとは実践的な経営教育の方法で、実際の経営状況をまとめた事例を素材に、ディスカッションを通して新たな知恵を共創するものです。科学的な視点で実証的に真理を解明し問題を解決していく慶應義塾伝統の「実学の精神」のもと、KBSでは研究を重ねてきました。常に最先端の経営知見がアップデートされる3,500余りのオリジナルケースは、企業経営者へのインタビュー内容だけでなく、教育の場で取り上げる訓練主題も含まれています。

慶應義塾草創期から続く、教える者と学ぶ者との師弟の分を定めず、先に学んだ者が後で学ぼうとする者を教えるという「半学半教」の精神は、KBSの教育においても大切にされており、学生同士や学生と教員とが議論を交える機会にあふれています。議論によって異なる視点・論点を知るばかりでなく、構築される人的ネットワークは卒業後の自身を研鑽してくれる支えともなります。

世界基準の教育品質保証と国際ネットワーク

KBSは、常に“世界トップクラスのビジネススクール”を目標に掲げ、高度な教育の質を確保してきました。2大国際認証機関(AACSB International、EFMD EQUIS)によるグローバル基準での客観的評価による認証を継続して得ています。また、世界規模の研究と教育に関する交流を推進するため、国際的なビジネススクールのネットワークに加盟し、共同研究・教員交流・学生の交換留学を積極的に行っています。

2大国際認証機関



AACSB International
Association to Advance
Collegiate Schools of Business
認証校全世界639校、
アジア32校、日本2校



EFMD
European Foundation for
Management Development
認証校全世界131校、
アジア20校、日本1校



AAPBS
Association of Asia-Pacific
Business Schools
アジア・大洋州地域の
ビジネススクールによる
研究・教育水準向上を推進する協議会



PIM
Partnership in International
Management
世界60校のビジネススクールが
加盟する研究・留学ネットワーク



**Eduniversal Worldwide
Business Schools Ranking**
仏SMBG社による
世界ビジネススクールランキング

1年次の学び

ケースメソッドを中心に総合的経営管理能力の基本となる主要8領域を徹底的に学習

基礎科目

総合的経営管理能力の基本となる主要8領域

経営に関する領域を8つに分けて、基礎科目が配置され、全員が必修科目として学びます。1年次後半からはそれぞれの領域に専門科目が配置され、必要な科目を自ら選択して履修します。

会計管理

経済・社会・企業

経営科学

財務管理

組織マネジメント

生産政策

マーケティング

総合経営

総合演習科目＝「ビジネス・ゲーム」

自身の経営管理能力のレベルを判断する

1年次の12月に2泊3日の合宿形式で行われる演習科目で、参加者8～10名を1つの仮想企業とし、各社が同一市場で事業業績の向上を目指して激しい競争を展開する模擬経営の場です。企業間競争の展開を通じて、会計、組織、経営科学、マーケティングなど経営の各分野間の協調の重要性とマネジメントの役割について認識を深めることができます。



1年次「経営に関する基盤知識の獲得」

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

■1学期開始

●入学式

入学式後にはオリエンテーションがあり、KBSでの2年間がスタート。



●入学合宿(5泊6日)

さまざまな職場や環境から入学した学生同士が集い、寝食を共にする導入合宿。

●中間試験／期末試験

日々の授業に加え、各科目の達成度、理解度を確認する試験が各学期に行われます。



●夏季休校(夏休み)

夏休みを利用して、企業で自主的にインターンシップや、英語の学習に取り組む学生もいます。



■2学期開始

●IP(国際単位交換プログラム)生受け入れ

提携先ビジネススクールから2学期および3学期に15～20名の留学生を受け入れ、留学生とKBS学生が共に学べる授業を英語で開講。

●TOEFL ITPテスト

全員受験が義務付けられています。留学を考える学生は継続的な英語の学習がおすすめです。

●平日の時間割

月曜から金曜午前9:00から時間割に沿ってグループ(約10名)やクラス(約50名)で授業を展開。



11月

12月

1月

2月

3月

■3学期開始

●ビジネス・ゲーム合宿(2泊3日)

実際の日本の企業をモデル化。8~10名単位で仮想企業1社を構成し、同一市場で事業業績の向上を目指し競争を展開する、いわゆる模擬経営を体験。



●IP(派遣)選考

世界各国トップレベルのビジネススクールから、自身の将来のキャリアに合わせてさまざまな観点で留学先を選択できます。一定の英語力と学業成績をクリアすることが必要。



1年次修了!

●就職活動

就職活動にあたり、KBS修了生、慶應義塾卒業生の情報の一部を公開しています。希望する業種・企業などで検索し、OB・OGと連絡をとることが可能。

●ゼミ選択

2年次の学びの中核になるゼミ。教員によるゼミ説明会や教員研究室を訪ねるオープンドア期間が設けられています。



2年次の学び

学び得たことをさらに深め、自らの秘めたる能力や可能性を発見する

ゼミナール

半学半教を実践する少人数での議論で、さらに専門を極める

2年次の学びの中核となるのがゼミナールです。KBSのゼミナールは、慶應義塾の「半学半教」の伝統を最も色濃く受け継ぎ、少人数による、密度の濃い議論を通じ、自ら問題を発見し最先端の理論や技法を駆使し問題解決を図るというスタイル。高度な専門科目を選択履修しながら、所属するゼミナールを1つ選び、各専門分野で研究者として高く評価されている教員の指導のもと修士論文を完成させます。

各ゼミナールは概ね4～8名で構成されているため、マスプロ教育では得られない非常に濃い密度のインタラクションが可能です。経営技法を扱う通常のクラスではなかなか掘り下げられない世界観や歴史観、あるいは人生観、さらには文化、教

養など幅広いトピックについて話し合う場にもなります。濃密な人間関係が築かれることもあり、ゼミ生同士はもとより、先輩・後輩とのつながりも強く、修了後も互いの成長の刺激となる貴重な人脈となります。

修士論文テーマ(2016年修了生の一例)

- Seed stageにおけるベンチャー企業への投資判断条件の一考察
- 『おもてなし』としての接客サービスは、日本のサービス業の競争力の源泉か？
- 移転価格税制が企業行動に与える影響
～実証分析と判例／事例研究～

2年次「ビジネス上の強みとなる専門能力を深化させる」

4月

5月

6月

7月

8月

9月

■1学期開始



●ゼミ活動開始

少人数による密度の濃い議論の中で、自ら問題を発見し、最先端の理論や技法を駆使して問題解決に取り組めます。



●アジアビジネス・フィールドスタディ(CKJ)

清華大学(中国)、KAIST(韓国)とKBS(日本)の3校合同プログラム。開催国の企業等を訪問し、グローバル市場における海外戦略について政策提言を行うことを目的とした授業。

■2学期開始



●ゼミ合宿

教員とはもちろん、先輩後輩のつながりも強く、在学中に限らず修了後も互いの成長の刺激となる貴重な人脈を形成する場となります。

●IP派遣

留学期間は4カ月と短いながらも世界各国トップレベルのビジネススクール協定校で学べる毎日は刺激にあふれています。





10月

11月

12月

1月

2月

3月

■3学期開始

●修士論文発表会



●Council on Business & Society(CoBS)

6カ国のトップ・ビジネススクールからなる国際共同研究・教育のアライアンス。2011年に設立。
年次国際フォーラムで、パネルディスカッション、分科会を開催。産・官・学が一体となり、活発な議論を展開。学生の参加機会もあります。



●大学院学位授与式／KBS修了式

修士(経営学)を取得し、自身のキャリアビジョンに基づいて新たな社会での活躍を!

●企業説明会(随時)

KBS学生の積極採用を考えている企業による説明会や、KBS修了生による体験談・個別説明会を随時開催。



世界各国のトップビジネススクールに留学のチャンス

IP

国際単位交換プログラム International Exchange Program

豊富な協定校

交換留学先には世界各国トップレベルのビジネススクールがずらりと揃っています。さまざまな地域や国の中から、将来のキャリアプランや興味のある学問分野、自身の英語力などに応じて最適な学校を選択可能です。

短期の留学プログラム

留学期間は4カ月。過去に海外に長期留学した経験のない学生でもチャレンジしやすいプログラムです。

留学前の学習サポート

効率的な学習計画を立ててもらうことを目的に、2014年度から入学時にTOEFL ITPテストを新入生全員に課しています。また、英語でのコミュニケーションの訓練を目的とした授業や、協定校からの留学生も参加するすべて英語で実施される授業を多く設置しているため、日本にいながら留学までに必要なコミュニケーションスキルを習得することができます。

■応募資格

- ①本研教科正規生で、派遣時に第2学年生として在籍する者
- ②本研教科修士課程第1学年1学期と2学期に履修した基礎科目の平均点が基準点以上であること
- ③協定校で勉強するに足る語学能力と動機を有する者
 - ・TOEFL iBT (Internet Based Test) の点数が基準点以上であること
 - ・協定校によっては上記基準点以上の語学力を要する場合がある
- ④本研教科の課程修了の可能性を持つ成績で、修士論文完成の見込みがある者

■留学先での履修単位

留学先で取得した単位は、留学先のMBAコース正規科目に限り、8単位を超えない範囲で本研教科課程修了に必要な単位として認定することができます。

■費用

留学先での授業料は免除されますが、渡航費、生活費、教科書代、保険代等その他の留学諸経費は個人負担となります。

国際単位交換プログラム 2年間の流れ

第1学年			第2学年		
1学期 4～8月	2学期 9～12月	3学期 1～3月	1学期 4～8月	2学期 9～12月	3学期 1～3月
KBSでの科目履修			留学先での科目履修		
●新入生向け説明会 ●募集説明会			●選考 ●出発直前説明会 ●帰国後報告会		

海外MBA取得を国際キャリアのアドバンテージに

DD

ダブルディグリー・プログラム Double Degree Program

最短2年間で2つの大学から学位を取得

KBSと留学先で1年ずつ学び、2年間(WHUとのプログラムは2年半)で2つの学位が授与されます。修了後に海外での就職を視野に入れている方や、国際関係のキャリアを希望する方には、大きなアドバンテージとなります。

長期の留学プログラム

ダブルディグリー・プログラムは1年間の留学期間となるため、より専門性を極めるための履修計画を立てることができます。異文化にどっぷり浸かることで確かな国際感覚も身につきます。

■応募資格

- ①本研教科正規生で、派遣時に第2学年生として在籍する者
- ②本研教科修士課程1学年1学期と2学期に履修した基礎科目7科目のすべてに合格し、その成績平均点が基準点以上であること
- ③TOEFL iBT100点以上、GMAT600点以上であること
- ④一定年数の実務経験を有すること

■留学先での履修内容

留学先の学校ではMBA正規科目(専門科目)を履修することになります。履修単位は留学先により異なります。

- 留学前に「研究計画書(Study Plan)」「(英語)、全課程修了時点で「成果報告書」(英語)を提出し、それぞれ審査に合格する必要があります。「研究計

画書」には、留学先で履修したい科目のリストおよび、どのような戦略や一貫性をもたせて科目選択をしていきたいか、自身のキャリア計画との関連などについて記載します。「成果報告書」には、履修した科目名だけでなく、課外活動を含めた広義の学問的成果、キャリア形成、異文化理解などの面において、どのような成果が得られたかについて具体的に記載します。

- KBSでのゼミナールには所属せず、KBSでの修士論文は課されません。

■費用

留学先での授業料は免除されますが、渡航費、生活費、教科書代等その他の留学諸経費は個人負担となります。また留学先により別途自己負担分が発生することがあります。

IP 国際単位交換プログラムのすゝめ



新改 敬英 2016年修了

The University of Chicago Booth School of Businessへ国際単位交換留学
現：九州大学大学院経済学府 経済システム専攻 博士後期課程在学中

もしチャンス(とやる気)があるのであれば、絶対挑戦した方が良いと思います。理由は主に次のふたつ。

まず、留学先で経験する多様性。日本では絶対に経験できません。私にとってはそれだけでもかなりの収穫でした。

次に、全ての提携校が世界トップクラス(学費も!)。私がそうであったように、どこに留学したとしてもクラスメイトから相当な刺激を受けることができるでしょう。日本で唯一、AACSBとEFMD EQUISの2大国際認証を取得しているKBSならではだと思います。ぜひ有効活用することをオススメします。



DD ダブルディグリー・プログラムのすゝめ



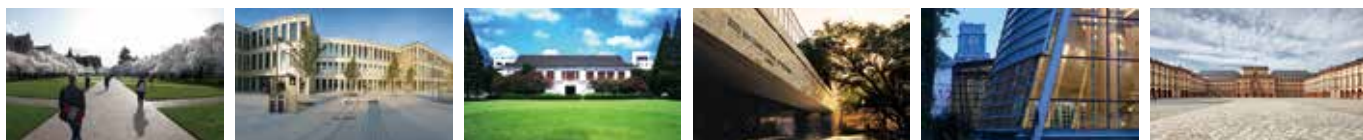
竹入 慶彦 2016年修了

ESSEC Business Schoolへダブルディグリー留学
現：株式会社LIXIL

Public Affairs部門 グローバルコーポレートコミュニケーション部

KBSで過ごす1年次に日本語で経営の基礎を深く理解し、次の1年間で留学に臨むDDプログラムのメリットは大変大きいといえます。KBSの基礎科目は海外ビジネススクール以上の充実度を誇り、得た知識を活かして留学先のESSECでも気後れすることなく議論やグループプロジェクトに貢献できました。特に、重点的に履修したNegotiation系の科目はハードルの高いものでしたが、ケースを繰り返すなかで、留学後半には他の学生に負けない交渉力を身につけることができました。1年次に基礎科目の学習に注力するなかで、TOEFL・GMATの学習を進めるのは大きな負担がかかりますが、見合うだけの経験が積める価値あるプログラムです。

交換留学協定校 所在地域・国



アジア・オセアニア

Australia
China
India
Korea
Philippines
Singapore
Taiwan
Thailand

欧州

Belgium
Denmark
France
Germany
Italy
Netherlands
Norway
Spain
Sweden
UK

北米

Canada
USA

南米

Brazil

中東

Israel

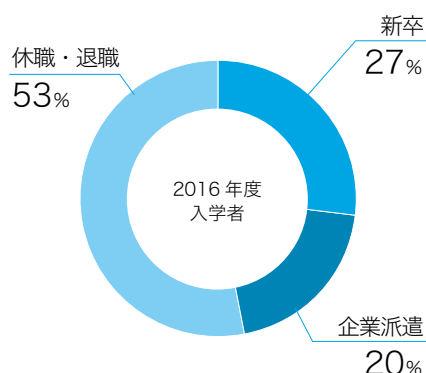
アフリカ

South Africa

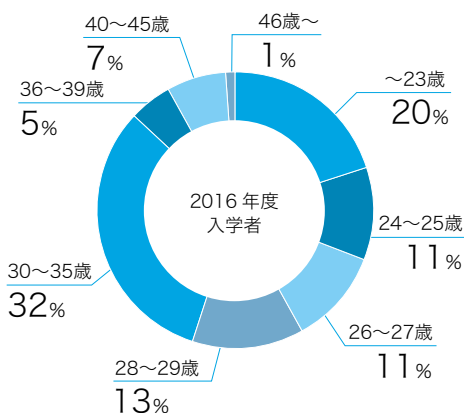
学生プロフィール

多様性あふれるバックグラウンド

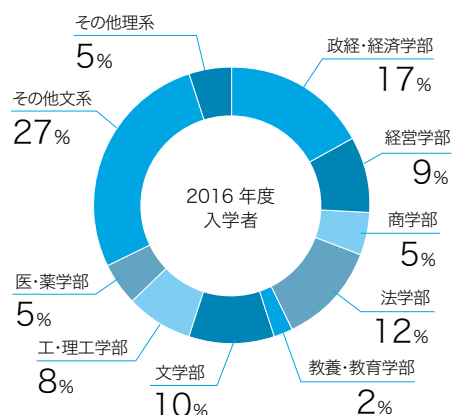
経歴



年齢



出身学部



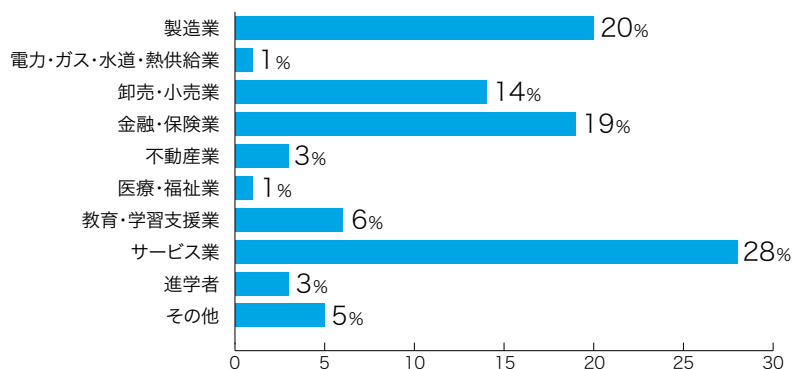
(2016年入学生データ)

キャリア

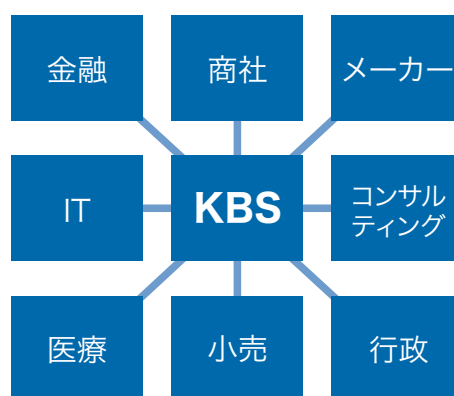
キャリア形成をサポートする就職支援体制

修士課程修了後に就職・転職を考えている学生を対象に、KBSでは一人ひとりの希望に沿ったきめ細かいキャリアサポートを行っています。入学直後から、キャリアについて具体的に考えるセミナーやガイダンスを提供しているほか、企業説明会の開催や個別のキャリア相談を通じて、キャリア形成と志望する進路の実現を支援しています。

- 就職支援専門スタッフの配置
- 就職ガイダンス・キャリア形成支援セミナーの開催
- 企業説明会(随時)の開催
- 求人・インターンシップ情報の紹介
- 転職エージェントの紹介
- 修了生情報の提供



(2016年修了生 2016年3月31日現在)





KBS 同窓会

社中とのつながり。KBSの仲間とのつながり。

卒業生 約 **3,700** 名

修了生は共に学生生活を過ごした同期と強い絆で結ばれるのはもちろんですが、KBS同窓会の活動を通じて縦のネットワークを形成します。KBS同窓会は総会員数約3,700名を抱える大きな組織で、名簿を管理・公開しているほか、メールマガジンの発行、年1回の総会やMBAカフェ、ストラテジックインサイトセミナー(SIS)などのイベントを開催し、幅広い活動を行っています。また、慶應義塾の卒業・修了生の同窓会組織である「三田会」の一員として、業種、職種、国境を超えた有形、無形の価値を得ることができます。

*慶應義塾では、学生を「塾生」と呼び、卒業・修了生を「塾員」と呼び、これに教職員を合わせた組織を一つのカンパニーの構成員として、福澤諭吉は「社中」という言葉で表現しました。

後期博士課程

研究者への道

高等教育機関や研究機関の研究者として、あるいは研究・教育機関以外の各種専門機関において高度な専門家として活躍することを目指す人のために、後期博士課程が置かれています。出身大学大学院修士課程の専攻分野を問わず、経営学分野への旺盛な勉学意欲と問題意識を持ち、高度な学識と識見を積みたい人を広く受け入れています。

経営管理に関する専門科目を履修することに加え、9つの研究教育分野から自分の研究領域を2つ選択し、ケースの開発および事例研究論文の作成発表、総合試験合格、プロポーザル作成、博士論文作成・合格により、博士(経営学)学位が取得できます。

最先端の研究を反映した授業を展開する教授陣

生産



河野 宏和

KONO, Hirokazu

教授／経営管理研究科委員長／
ビジネス・スクール校長

専攻分野：

生産政策、生産マネジメント、生産管理論、経済性工学



市来寄 治

ICHIKIZAKI, Osamu

専任講師（有期）

専攻分野：

生産政策、インダストリアル・エンジニアリング



坂爪 裕

SAKAZUME, Yu

教授

専攻分野：

生産政策、生産マネジメント

財務



小幡 績

OBATA, Seki

准教授

専攻分野：

企業金融、行動ファイナンス、NPO、政治経済学



齋藤 卓爾

SAITO, Takuji

准教授

専攻分野：

コーポレート・ファイナンス、コーポレート・ガバナンス、企業経済学



高橋 大志

TAKAHASHI, Hiroshi

教授

専攻分野：

企業財務、ファイナンス、アセットプライシング

会計



太田 康広

OHTA, Yasuhiro

教授

専攻分野：

分析的会計研究



木村 太一

KIMURA, Taichi

助教（有期）

専攻分野：

管理会計、マネジメント・コントロール



村上 裕太郎

MURAKAMI, Yutaro

准教授

専攻分野：

分析的会計研究、税務会計

マーケティング



井上 哲浩

INOUE, Akihiro

教授

専攻分野：

マーケティング・マネジメント、マーケティング・サイエンス、マーケティング・コミュニケーション・マネジメント



坂下 玄哲

SAKASHITA, Mototaka

准教授

専攻分野：

ブランド・マネジメント、消費者行動



山本 晶

YAMAMOTO, Hikaru

准教授

専攻分野：

インターネット・マーケティング、マーケティング・マネジメント、消費者行動



余田 拓郎

YODA, Takuro

教授

専攻分野：

マーケティング戦略、ビジネス・マーケティング、事業戦略

組織・マネジメント



浅川 和宏

ASAKAWA, Kazuhiro

教授／三菱チェアシップ基金教授

専攻分野：

多国籍企業経営、組織理論、グローバル・イノベーション論



大藪 毅

OYABU, Takeshi

専任講師

専攻分野：

人的資源管理論、労働経済学、医療管理学



清水 勝彦

SHIMIZU, Katsuhiko

教授

専攻分野：

組織マネジメント、企業変革、M & A、戦略実行・変更



林 洋一郎

HAYASHI, Yoichiro

准教授

専攻分野：

産業・組織心理学、組織行動、社会心理学

情報・意思決定



大林 厚臣

OBAYASHI, Atsuomi

教授／松下幸之助チェアシップ基金教授

専攻分野：

経済学、産業組織論、リスク・マネジメント



林 高樹

HAYASHI, Takaki

教授

専攻分野：

統計のデータ解析、計量ファイナンス



渡邊 直樹

WATANABE, Naoki

准教授

専攻分野：

ゲーム理論、ミクロ経済学、経済実験

経営環境



姉川 知史

ANEGAWA, Tomofumi

教授／富士通チェアシップ基金教授

専攻分野：

企業経済学、応用ミクロ経済学、国際経営、医療経済学



後藤 励

GOTO, Rei

准教授

専攻分野：

医療経済学、行動経済学、保健医療政策



中村 洋

NAKAMURA, Hiroshi

教授／エーザイチェアシップ基金教授

専攻分野：

経済学、産業組織論（ライフサイエンス、ヘルスケア、IT）、経営戦略論

総合経営



磯辺 剛彦

ISOBE, Takehiko

教授

専攻分野：

経営戦略、グローバルマネジメント



岡田 正大

OKADA, Masahiro

教授

専攻分野：

経営戦略論



小林 喜一郎

KOBAYASHI, Kiichiro

教授／トヨタチェアシップ基金教授

専攻分野：

経営戦略論、組織戦略論

入学試験概要

入学へのステップ

【出願】

出願期間にWebサイトからエントリーすることで、出願者の基本情報登録や出願書類帳票が出力されます。提出書類を全て郵送することで出願手続が完了します。

【入学試験】

第一次試験(書類審査)合格者は第二次試験(筆記試験、面接試験)に臨みます。秋期募集(10月)で不合格になった場合も、春期募集(2月)への再チャレンジが可能です。

【合格発表】

Webシステムと掲示(日吉キャンパス協生館2階大学院事務室)で行います。発表はすべて受験番号で表示します。

【入学手続】

第二次試験合格者には、合格発表と同時に入学手続書類を送付します。期限内に諸手続きを完了させてください。

◆2017年度入学 新卒学生選抜制度入試概要

出願期間	2016年6月6日(月)～6月20日(月)	試験	2016年7月4日(月)
合格発表	2016年7月6日(水)13:00	入学手続期間	2016年7月6日(水)～7月19日(火)

■ 募集人員 若干名

■ 試験科目 面接試験

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 2,117,600円

■ 出願資格

(1)日本国内の大学学部を2016年4月以降2017年3月までに卒業または卒業見込みの者

(2)日本国内の大学学部の2015年度までの成績証明書に記載されている「A」相当(100点満点換算の80点以上)の評価を得た科目の単位数合計が、取得単位(自由科目は除く)の総単位数の3分の1以上の者

*この出願資格は、秋期・春期の入試には適用されません。新卒学生選抜に出願したか否かにかかわらず、秋期・春期の入試にも出願できます。

Web <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/mba/application.html>

◆2017年度入学 修士課程 一般・国際プログラム重視・企業派遣者対象入試概要

多様性に富んだクラス実現のために、「一般入試」のほかに「国際プログラム重視入試」「企業派遣者対象入試」の2種類の入学試験オプションを提供します。

	秋期募集	春期募集
出願期間	2016年9月15日(木)～10月3日(月)	2017年1月6日(金)～1月23日(月)
第一次試験合格発表	2016年10月12日(水)13:00	2017年2月1日(水)13:00
第二次試験(筆記試験・面接試験)	筆記試験 2016年10月15日(土) 面接試験 2016年10月15日(土)または16日(日)	筆記試験 2017年2月4日(土) 面接試験 2017年2月4日(土)
第二次試験合格発表	2016年10月19日(水)13:00	2017年2月8日(水)13:00
入学手続期間	2016年10月19日(水)～10月31日(月)	2017年2月8日(水)～2月20日(月)

■ 募集人員 約100名(新卒学生選抜・秋期・春期合計)

■ 試験科目 第一次試験 提出された出願書類についての選考

第二次試験 【一般入学試験】筆記試験(小論文)および面接試験
【国際プログラム重視入学試験】面接試験(一部英語)
【企業派遣者対象入学試験】面接試験

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 2,117,600円

■ 出願資格

- 大学を卒業した者および2017年3月31日までに卒業見込みの者
- 大学改革支援・学位授与機構(旧大学評価・学位授与機構)により学士の学位を授与された者および2017年3月31日までに授与見込みの者
- 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および2017年3月31日までに修了見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者
- 外国において学校教育における15年の課程を修了した者および修了見込みの者、当該大学で履修した単位のうち、本研究科が定める所定の単位について、優れた成績をもつ

て修得したものと認めた者

(6)その他、本研究科が大学学部を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学までに22歳に達する者

【一般入学試験】

(1)前述の「出願資格」を満たしている者

【国際プログラム重視入学試験】 以下の(1)～(3)を満たしている者

- 前述の「出願資格」を満たしている者
- 出願日からさかのぼって過去2年間に受験した試験結果がTOEFL iBT90点以上またはTOEIC860点以上の者
- 第一言語が日本語である者、または日本の大学(主たる指導言語が日本語で学士の学位を取得する課程)を卒業した者および2017年3月31日までに卒業見込みの者

【企業派遣者対象入学試験】 以下の(1)および(2)を満たしている者

- 前述の「出願資格」を満たしている者
- 本研究科が指定した企業・団体から派遣される者

*企業派遣の実績のない企業はお問い合わせください

Web <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/mba/application.html>

◆2017年度入学 後期博士課程入試概要

出願期間	2017年1月19日(木)～2月9日(木)	第一次・第二次試験	2017年2月18日(土)
合格発表	2017年2月22日(水)13:00	入学手続期間	2017年2月22日(水)～3月6日(月)

■ 募集人員 8名

■ 試験科目 第一次試験 筆記試験(専門科目・英語)および書類審査
第二次試験 面接試験

■ 入学検定料 35,000円

■ 初年度納付金 882,600円

■ 出願資格

- 大学院修士課程修了者および2017年3月修了見込みの者
- 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者および2017年3月授与見込みの者
- 文部科学大臣の指定した者
- その他、本研究科が修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認めた者

Web <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/phd/application.html>

慶應義塾大学 奨学・融資制度

慶應義塾大学ではさまざまな奨学・融資制度があります。奨学金ごとの申請期間・申請資格・提出書類などの詳細は、入学後に配付される「奨学金案内」およびWebサイトで確認してください。

Web <http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shogaku>

【日本人学生対象】

●主な奨学制度

奨学金の名称	申請受付時期	給付／貸与	期間
小泉信三記念大学院特別奨学金	2月(入学前)	給付	1年間
日本学生支援機構奨学金	4月	貸与	標準修業年限
慶應義塾大学大学院奨学金	4月	給付	1年間(修士1年優先)
慶應義塾大学「研究のすゝめ奨学金」(2016年度新設)	4月	給付	1年間(修士2年対象)
指定寄付奨学金	主に5月	給付	1年間(再申請可)
民間団体奨学金・地方公共団体奨学金	主に4月・5月	給付／貸与	標準修業年限のものが多い

(2016年4月現在)

【私費留学生対象】

私費留学生対象奨学金は在留資格が「留学」の学生を対象にしています。詳細は国際センターのWebサイトを参照してください。

Web http://www.ic.keio.ac.jp/intl_student/scholarship/intl_student.html

●主な奨学制度

奨学金の名称	申請受付時期	給付／貸与	期間
未来先導国際奨学金	1月(入学前)	給付	2年間
小泉信三記念大学院特別奨学金	2月(入学前)	給付	1年間
文部科学省外国人留学生学習奨励費	4月	給付	1年間
民間団体奨学金・地方公共団体奨学金	4月、5月が多い	給付	標準修業年限のものが多い
慶應義塾大学大学院奨学金(留学生)	10月	給付	1年間

(2016年4月現在)

入試説明会、オープンキャンパスを開催

入試概要の説明、授業を体感できるオープンキャンパスを複数回実施します。在校生や修了生の生の声を聞くこともできます。

入学を検討される方はぜひ、ご参加ください(Webサイトからの事前申込制)。

また、入試過去問題は、日吉学生部大学院事務室にて閲覧できます。

窓口対応時間 平日 8:45~16:45

身分証明書をご持参ください。事務室内にて閲覧となります。(複写不可)

土曜日・日曜日・祝日・義塾が定めた休日および事務室の休業期間中は閉室となります。

Web <http://www.kbs.keio.ac.jp/graduate/mba/application.html>

アクセス

慶應義塾大学日吉キャンパス

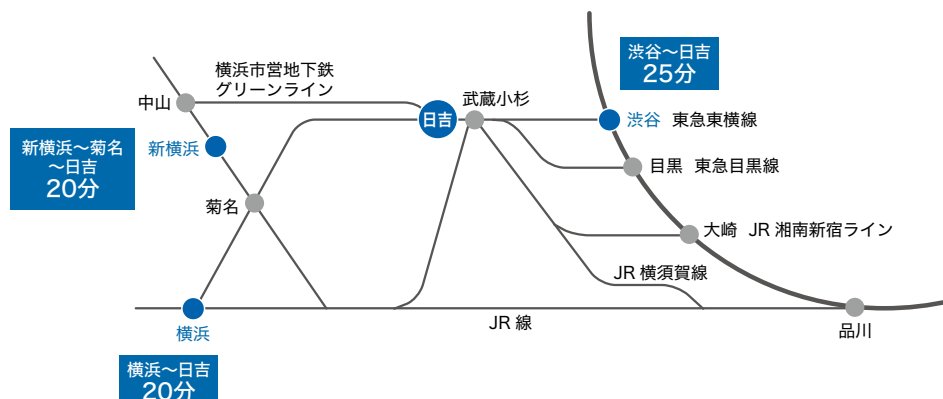
東急東横線・目黒線、
横浜市営地下鉄グリーンライン
「日吉駅」下車、徒歩1分

渋谷～日吉：25分(急行約20分)

横浜～日吉：20分(急行約15分)

新横浜～日吉：20分

※東急東横線の特急フライナーは
日吉駅に停まりません。





Graduate School of Business Administration Keio University

[お問い合わせ]

慶應義塾大学日吉学生部 経営管理研究科担当

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

Tel : 045-564-2441 E-mail : gakukbs@info.keio.ac.jp



KeioBusinessSchool1962



KBS1962

<http://www.kbs.keio.ac.jp/>